

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成29年7月8日実施】

学校関係者評価委員氏名 【委員意見まとめ】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見																		
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1																				
1 ・ 育 成 人 材 像	1 理念・目的・育成人材像	2.9		<p>学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。</p> <p>また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことによりかなりの力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。</p>	<p>業界の変化に対応するため、育成人材の見直しは、常にかつ組織的に行われなければならない。本校では、その専門職として、ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(※)を置き、育成人材像から学科の教育内容の見直しを行っている。</p> <p>※ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)</p> <p>専門学校における教育の構成要素</p> <p>①養成目的と教育目標(社会ニーズと卒業時到達目標) ②目標達成プロセス(カリキュラム・学年歴・時間割・シラバス・コマシラバス) ③目標達成素材(教科書・教材・教育技法) ④目標達成支援人材(担任・専任教員・講師) ⑤評価基準(透明性・公平性・競争性)</p> <p>を学校・学科の独自性・有効性に役立つように改革する核となる人材。</p>	3		<p>【青木委員】魅力的なアプローチができていていると思う。 【上田委員】保護者会にサロンのスタッフも参加をして話をするなど、業界関係者と保護者の方々と絡みがあっても良いかと思う。 【山元委員】理念に基づいていると思う。</p>																		
2 学 校 運 営	2 運営方針	3	3	<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。</p> <p>それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。</p> <p>常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。</p> <p>マネージャーは組織運営者であることを前提としている。</p>	3		<p>【長谷川委員】今後、働き方改革への対応を行う必要がある。 【上田委員】教員の方々のモチベーション、距離感などはとても良いと思う。現場(サロン)経験者を取り入れやすい環境を作っていたら良いと思う。</p>																		
	3 事業計画								<p>事業計画は学園理念を根底に記し、養成校毎の人材育成を実現するために5年後の中期目標を設定し、健全な学校運営ができるように設定している。</p> <p>事業計画にはマイルストーンの設定だけではなく、組織構造を形成するために必要な予算・財務状況も含めて設定をしている。</p>	<p>事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。</p> <p>その運営のチェック機能として</p> <p>①学園の常務会議 ②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議) ③運営会議(学科責任者会議) ④学科会議、部署会議があり</p> <p>計画遂行の確認をする。 問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。</p>																
	4 組織運営								<p>意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。</p> <p>毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。</p>	<p>会議については下記2点を重視している。</p> <p>①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール</p> <p>また、会議についての研修を実施している。</p>																
	5 人事・給与制度								<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。</p> <p>採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。</p> <p>採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。</p> <p>そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務は情意効果として評価している。</p> <p>目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。</p> <p>また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>																
	6 意思決定システム								<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。</p> <p>それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。</p> <p>このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>会議は</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 法人理事会・評議員会</td> <td>最高決議機関</td> </tr> <tr> <td>2. 学校戦略会議</td> <td>運営方針の起案会議</td> </tr> <tr> <td>3. 法人学校運営会議</td> <td>運営方針の問題を発見・対策立て会議</td> </tr> <tr> <td>4. 運営会議</td> <td>学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議</td> </tr> <tr> <td>5. 学校全体会議</td> <td>決定事項の周知</td> </tr> <tr> <td>6. 学校学科会議・部署会議</td> <td>部署の問題解決会議</td> </tr> <tr> <td>7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 様々なプロジェクトの会議がある。</td> <td></td> </tr> </table>	1. 法人理事会・評議員会	最高決議機関	2. 学校戦略会議	運営方針の起案会議	3. 法人学校運営会議	運営方針の問題を発見・対策立て会議	4. 運営会議	学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議	5. 学校全体会議	決定事項の周知	6. 学校学科会議・部署会議	部署の問題解決会議	7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会)		8. 様々なプロジェクトの会議がある。	
	1. 法人理事会・評議員会								最高決議機関																	
	2. 学校戦略会議								運営方針の起案会議																	
3. 法人学校運営会議	運営方針の問題を発見・対策立て会議																									
4. 運営会議	学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議																									
5. 学校全体会議	決定事項の周知																									
6. 学校学科会議・部署会議	部署の問題解決会議																									
7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会)																										
8. 様々なプロジェクトの会議がある。																										
7 情報システム	<p>個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。</p> <p>それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたこと、法人内のコンピュータ関連会社の協力、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。</p> <p>ここで重要なことは、何のための情報システム化をしているのかという点である。</p> <p>入学前、在籍中、卒後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。</p> <p>また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。</p>	<p>特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。</p> <p>そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。</p>																								

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成29年7月8日実施】

学校関係者評価委員氏名 【委員意見まとめ】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	8 目標の設定	2.4		教育指導要領に基づき理念に沿った教育を行っている。また教育到達レベルも明確に明文化されている。	学校独自の教育システム PCP教育プログラム MMP教育プログラム	2.6	【村橋委員】協会の求める人材の育成になお一層の努力を期待する。 【青木委員】教員の団結力を感じる。 【長谷川委員】社会に出てから(サロンで働く)の理想と現実のギャップによるミスマッチが起こらないような指導がより必要(卒業生からの講話・講習会にて)。美容業界においてもグローバル社会への対応として英会話の指導を取り入れることも検討いただきたい。 【上田委員】国家試験に対してのマニュアルを明確にし、就職後に影響のある授業をもっと取り入れても良いと思う。「国家試験」「就職」の2点に絞った内容で始めると良いと思う。サロン経験がより近い人材の登用が効果的と思われる。 【山元委員】教育プログラムは大変良いと思う。
	9 教育方法・評価等	2.1		養成目的・教育目標を立てたうえで、卒後の業界の求める人材育成を実施している。単なる「職業教育」から「職業人教育」へと教授内容・方法をシフトさせており、その根底になっているものとしてキャリア教育の観点を取り入れている。	養成目的 教育目標 学生サポートブック		
	10 成績評価・単位認定等	3		教育成果を図るための評価基準は明文化されている。また、職員のみならず学生はもちろんのこと、保護者会を通じて保護者にも周知している。国家試験合格のための知識・技術の向上を中心とした教育プログラムとなっている。このため、外部コンテストで求められる技術や特に創造力を育む教育プログラムの導入を検討する必要があると感じている。	学生便覧 学則施行細則		
	11 資格・免許取得の指導体制	2.4		美容師免許取得は学科としての必須命題である。このため法律に則った教育の施行を遵守し教育にあたっている。平成28年度国家試験の合格率は94.1%、不合格者に対し無料で国家試験対策授業(通信課程)に参加できるようにしている。	学生便覧 学則施行細則 卒後支援プログラム		
	12 教員・教員組織	2.4		教員の体制については特に問題はないが、多様化する学生への学習支援が求められている。特に学習習慣がない・低学力などの学生に対する教育支援が課題となっている。	講師会議 科目連絡会 国家試験対策教員勉強会		
4 学修成果	13 就職率	2.4		就職率に関しては開校以来3月末100%を維持してきたが、平成26年度に続く3年連続で未内定者を出した。就職内定率と専門就職率は共に90%を超える数値で、高い水準を満たしている。これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。未内定者については、なかなか受験先を決められないという理由が多く、今後のキャリア支援のプログラムを見直し、強化していく必要がある。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターの目的は ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう:入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援:在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援:卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチング などの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	2.6	【村橋委員】多様な学生の就職希望に対応できる選択肢の豊富な求人情報の収集と学生への提供を期待する。 【青木委員】高い水準を保っていると思う。 【長谷川委員】SNSを活用した卒業生同士のネットワークを構築してはどうか。 【上田委員】就職100%実現のために現場(サロン)スタッフに近い距離で接することができる環境があると良いと思う。学生との時代・年齢のギャップが生じると思うので、モチベーションの上げ方を研究する必要がある。就職支援では大手・中・小規模など差別化をして話し合いができる場があると良いと思う。 【山元委員】国家試験対策の時間は良い意味でかなり多いと感じる。
	14 資格・免許の取得率	2.4		職業人教育を担う教育機関としては就労につながる資格に関しては学生全員に取得していただくことを目標にしているが、学生全員の全ての資格試験合格には至っていない。現在は各学科で資格取得のために、対策授業の実施など対策を立て実行している。	資格特別対策講座を、各資格で必ず取り入れている。美容師国家資格では、10年以上全国平均を上回る結果を残している。		
	15 卒業生の社会的評価	2.4		卒業生の社会での活躍は年々増えてきている。有名サロンへの就職のみならず、芸能人のヘアメイク、オリンピックにおけるメイク担当などグローバルな活躍をする卒業生も増えてきている。卒業生の活躍は求人票の多さにも現れている。在校生は、実習活動や卒業研究を通して社会で活躍している。今後も在校生の活躍の場を広げていく取り組みを、学園の考えである「職業人教育を通じて社会に貢献する」人材育成をしていく。	卒業生の海外での活躍や、世界的なイベントでのヘアメイク担当など、活躍はグローバル化している。 例)美容師科1期生:佐藤 千栄(TONI&GUY、ロンドン アーティスト) 2014-2015 British Hairdressing Award AvantGarde 優勝 2014 AIPP国際大会アバンギャルド部門 優勝		
5 学生支援	16 就職等進路	2.4		開校以来、就職希望者内定者98~100%他の実績で表されているように、就職指導体制は高いレベルであると思われる。	【グループ校および報告書の活用】 美容室の求人情報をグループ校のキャリアセンターで共有していることで、求人を見逃しすることなく活用している。また、過去の美容室訪問や採用試験報告書などをファイリングし活用することで、学生への指導・対策を実施している。 【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者や卒業生にお越しいただき、指導などのサポートを実施している。	2.7	【村橋委員】大変難しい課題ではあるが、引き続きの努力を期待する。 【青木委員】少人数制の良さを活かしてクラスカ・学生のチームワークを上げられると思う。 【長谷川委員】保護者アンケートの実施は行っているか。社会人経験者の入学は今後増加するのではないかと。サポート体制を整備する必要がある。 【上田委員】キャリアセンターを一部の学生しか利用していないイメージがあるので、もっと緊密な関係性ができると良いと思う。就職指導において教員よりも現役の美容師と話をすることでプラスになることもあると思うので、卒業生に協力してもらうことは有効であると思う。就職サポートは自分の在学中より充実しており、良いと思う。保護者会で卒業生に協力してもらうことで、保護者の信頼につながると思う。卒業生は現場で鍛えられるので、定期的な集まりはなくても良いと思う。 【山元委員】一部のサロンに集中している。就職試験に落ちてしまった学生については、その理由がわかっていないと感じる。中途退学の抑止は難しいと思うが、教員と同様に学生も相互援助的に中途退学の抑止を行っていることを理解してほしい。保護者会は年2回の実施を望む。卒業3年間は半年に一度の技術チェックの実施など、支援をしていただきたい。
	17 中途退学への対応	2		専門学校の中途退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の中途退学率は年々減少し平成27年度は3%台までに到達することができた。しかし、平成28年度は、在籍者数の増加に伴い多様な学生が多数入学し、年々減少していた中途退学者率は、反転し増加傾向にある。対策として担任力の向上を図る研修を実施し複数年かけて5%に抑える。	臨床心理士のスクールカウンセラーと担任の連携を深めたことにより、カウンセリングの相談件数は増加傾向にある。		
	18 学生相談	2.7		学生の各種相談に対応できる体制を整えている。学生の相談内容が広域になり対応の際に専門的知識を伴うケースが多いため、スクールカウンセラーや留学生担当の職員の配置など対応できるようにしている。	SSC(スチューデント・サービス・センター)と連携をして学園として学生相談室を設置している。 留学生担当教員は東京都専修学校各種学校の主催の「留学生受入れ担当者研修」を受講し、受入れ担当者の資格を取得できるようにしている。 公的奨学金(日本学生支援機構・東京教育英資金) 医療機関 一人暮らしサポート サークル活動		
	19 学生生活	2.9		奨学金利用や健康管理、学生寮、サークル活動などを学生の生活支援の一環として実施している。養成像との直接の関わりはないが、美容分野への就学の機会や中途退学の抑止につながっていると思われる。	保護者会 学生面談 保護者面談		
	20 保護者との連携	3		普段の教育においても家庭からの協力を得られるように保護者会などでお願いをしている。具体的には出席の状況が不良の場合など一定の基準を伝え保護者に連絡を入れて就学支援の協力を仰ぐようにしている。殆どの保護者からはご理解をいただき学生の就学に向けてご協力をいただいている。これにより出席率の改善が見られる学生が増えた。	保護者会 学生面談 保護者面談		
21 卒業生・社会人	2		卒後の就職や転職の支援は整備されている。また、教育支援プログラムは年々多くしている。また、年1回開催されるベルエポックコンテスト終了後に、同窓会を実施し、卒業生の再就職、人材紹介に力を入れている。同窓会を組織し、その繋がり求人を探し、実習を受け入れてもらうなど多くの成果が表れてきている。近年、業界で実際に働いている卒業生講師なども採用し、在校生にとっては何年後かの将来像となり、大きな目標にもなっている。同窓生を対象とした技術向上支援等の充実については、今後の検討課題となっている。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。また、開業支援プログラムや卒後技術講習会など実施をしている。			

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成29年7月8日実施】

学校関係者評価委員氏名 【委員意見まとめ】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
6 教育環境	22 施設・設備等	2.8		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備は整備されていると考えている。 各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てそろえた環境として、承諾を得ている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。 平成28年度は開講以来はじめて大掛かりな実習室のリニューアルを行った。 授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	2.8	【青木委員】学生全員が海外研修に行けると良いと思う。 【長谷川委員】AEDの使用方法における講習を学生にも行うと良い。サロン入店後、顧客サービス時に有効であると考え。 【上田委員】課題はあるものの、充実していると思われる。現場実習は短期間実施が良い。長期間であるとモチベーションが下がってしまう学生が出ると思われる。 【山元委員】実習室がとてもきれいで都会的なイメージがあり良いと思う。現場実習の実施は良い。
	23 学外実習、インターンシップ等	2.8		学外実習・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	美容師科では約10日間に及ぶ現場実習を実施している。		
	24 防災・安全管理	3		防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 防犯対策として、防犯カメラの増設設置(27台)を行った。	・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ※学生避難訓練:平成29年1月16日実施 ※職員消火訓練:平成29年1月16日実施 ・AEDの全校舎設置 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計2台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。 教職員には、使用方法の講習済みである。 校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。		
7 受学生の れ募集と	25 学生募集活動	3		学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	美容・ファッションの聖地といわれる原宿で業界と直結した実践的な教育を広報で発信しよう努めている。 授業内容や、体験授業でその体験化を図り、HPやスマホ、Twitterなどで多くの人に見てもらえるように情報発信に注力している。	2.9	【上田委員】入学してからが勝負だと思うので窓口は広げた方が良いと思う。 【山元委員】場所の良さや体験授業での先輩達の接し方がとても良い。
	26 入学選考	2.8		入学選考の基準は明確に定められ適性に入学選考が行われている。 入学者数の予測を踏まえ財務を考えている。	入学選考評価シートを活用した評価の画一化 職員研修による入学者支援の策定		
	27 学納金	3		学納金については算定の内容を明確にしておりかつ毎年見直しを行い決定している。入学辞退者の授業料の扱いも文部科学省の通知趣旨に則って行っている。	入学金、授業料、諸費用を分けて学費徴収することで、教科書・教材費に関して無駄な費用請求を無くしている。 入学辞退者に関して3月31日までの申請に関しては、原則入学金以外の費用を受験生に返還している。		
8 財務	28 財務基盤	3		短期・中期・長期の収支計画を立て財務状況の健全維持に努めている。 収支・キャッシュフローの状況についても適宜確認できるようになっている。 学外に学校会計を担う株式会社があり財務面での処理については中立公正の立場で会計処理を実施しているため不正行為も未然に防げるようになっている。	学校法人東京滋慶学園財務諸表	3	
	29 予算・収支計画	3		厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。 そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	本部による財務状況のチェックを毎月受けている。また監事及び公認会計士による監査、行政への報告などを行っている。		
	30 監査	3		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。 これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	31 財務情報の公開	3		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。 学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。 今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法令等の 遵守	32 関係法令、設置基準等の遵守	2.8		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、平成18年度で完全に整備させた。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	3	【山元委員】とても楽しく学生が見やすいホームページである。
	33 個人情報保護	2.8		社会的にも個人情報流出のニュースが目立ち、必然的に学園主導ではあるが個人情報の取り扱いの意識向上につながった。 また、個人情報の取り扱いに関する情報整理やルール策定、職員の研修などを整備したことにより管理の透明性を図ることができた。	個人情報管理シート CPA研修 CPO研修 TRUSTe		
	34 学校評価	3		学校評価は適切な手順・方法で実施をされており、評価結果についても学校情報の一部として公開している。	学校ホームページにて学校情報を公開している。 ・学校評価(平成28年度)		
	35 教育情報の公開	2.8		自己点検・自己評価の結果を学校情報としてホームページ上に公開している。 情報公開という点では公開手段は現社会情勢に合った方法をとっており、実施内容は問題ないと考えている。	学校ホームページに下記情報を掲示している。 ・学校情報:トップページよりリンク ・職業実践専門課程:トップページよりリンク「別紙様式4」への導線を敷いている。		
1 貢献 0 地社 域会	36 社会貢献・地域貢献	2.8		学校としての社会貢献・地域貢献はその活動規模が小さいため目立ってはいないが、教育につなげて実施はしている。 また、学園をあげての取り組みとして、地球温暖化防止のための日常行動の注意喚起がある。	地球温暖化対策の中で、学生への啓蒙活動としてポスターを掲示している。 現在は、教職員に対してはクールビズとウォームビズ、電気使用について節電を徹底し、発電におけるCO2排出の抑制に努めている。	2.9	【上田委員】地域活動に参加している姿を見かけることもありとても良いと思う。 【山元委員】ボランティア活動は素晴らしいと思う。
	37 ボランティア活動	3		地域密着イベントに教育的観点から学生と共にボランティアとして参加しており、今後も積極的に取り組んでいく。	・全国盲導犬協会の募金箱を校舎毎に設置 ・赤い羽根共同募金寄付 ・歳末助け合い運動寄付		